

相談できる専門機関・お役立ち情報

ご自宅での健康相談



一般社団法人 日本精神科看護協会
看護師などの専門スタッフが、避難先のご自宅を訪問、心や身体の健康相談をしてくれる。
予約・お問い合わせ ☎0120-37-257

法律・登記に関するお困りごと

宮城県司法書士会

県内3カ所で相談センターを開設している。年間3,000件の相談対応実績。相続・贈与等の登記の相談もお気軽に。
仙台市青葉区春日町8-1 TEL.022-263-6755

帰還後の就職・転職希望者の支援

福島求人支援チーム

就職相談や転居費用支援の他、「福島復興エリア求人特集」ページや「福島ではたらく、移住きっかけマガジンHOOK」のウェブサイトを開設。
福島復興エリア求人特集ページ
http://求人ボックス.com/ 地方創生 - 福島県
HOOK ウェブサイト https://fukushima-hook.jp/

移住に関する情報の取得なら

みやぎ移住ガイド

宮城県の移住専用のホームページ。宮城県内の各市町村の支援情報等が掲載されている。
https://miyagi-ijuguide.jp/



福島県の就労や生活再建支援

ふくしま生活・就職応援センター

県内6カ所で求職支援や企業とのマッチング等を実施、生活再建に向けた相談も対応。
郡山事務所
TEL.024-925-0811 FAX.024-925-0821

住宅の再建資金のことなら

独立行政法人 住宅金融支援機構

「災害復興住宅融資」により住宅の再建を支援している。
お客様コールセンター(災害専用ダイヤル) ☎0120-086-353
https://www.jhf.go.jp/shinsai/index.html

宮城県営住宅、UR住宅

宮城県住宅供給公社

宮城県の県営住宅の募集を年4回実施している。県内各地の市営、町営住宅の情報もあり。
仙台市青葉区上杉 1-1-20 ふるさとビル
県営市町住宅 TEL.022-224-0014 UR住宅・公社住宅 TEL.022-261-6164

仙台市営住宅

公益財団法人 仙台市建設公社募集課

仙台市内の市営住宅の募集を定期募集年4回(6・9・12・3月)と特定枠を行っている。福島復興再生特別措置法に基づく居住制限者、子ども・被災者支援法に基づく支援対象避難者の方は、申込資格要件が緩和される。仙台市内に居住していなくても、または勤務地が仙台市でなくても申込みができる。
「入居募集のあんない」は募集月に仙台市建設公社または区役所、証明発行センター等で入手可能。
TEL.022-214-3604

帰還後の子育て支援(ままカフェ)

特定非営利活動法人ビーンズふくしま

不安や悩みを安心して話せる場所として「ままカフェ」を県内6カ所で実施中。託児スタッフもいるので子供と一緒に参加もOK。
TEL.024-573-0150

原子力に関する損害賠償

原子力損害賠償・廃炉等支援機構

説明会、個別相談会を全国各地で実施(相談予約 ☎0120-330-540)
電話・WEBによる無料情報提供 ☎0120-013-814

令和5年度福島県県外避難者への相談・交流支援事業

福島県 県外避難者の方へ

私たちの歩幅で

サロン・相談・情報ガイド

2024
VOL. 8

福島の人と話がしたい、相談したいけどどこに相談したらよいか分からない…etc. そんなお悩みを持っている県外避難されている皆様に、避難元市・町ごとの広域自治会、宮城県内で開催されている福島の方が参加されているサロン、相談可能な各種専門機関等のお役立ち情報をご紹介します。
今回も特集として宮城県から帰還された方にスポットをあて、サロンなどもご紹介。それぞれの歩幅でこの13年を歩んでこられた、それぞれの“歩み”を辿ります。

特集 帰還者を訪ねる

From 仙台市
To 双葉町

村井 民枝さん

再出発の町、多様な目的で集う住民 人生色々、それぞれの思いで暮らす

「ずっと仙台で暮らすのだろうと思っていました」と村井民枝さん。転々と移り住む中、仙台は「便利だった」とのこと。しかし、同居する娘さんが都会での車の運転に馴染めなかったり、自身が大きく体調を崩し3か月も入院したりと、暮らしを変える必要性が高まったタイミングで双葉町が公営住宅の住民募集を開始。娘さんの希望で帰還を決めました。現在の暮らしでは、スーパーも病院もなく「不便」な状況。しかし、「震災後最も落ち着いた生活」と話します。
公営住宅では現在、毎週木曜にサロンを開く他、「結ぶ会」という名称でイベントも行っていて、村井さんはその世話役をしています。「娘は双葉に戻って積極的に人と関わろうとなり、集金などもやってくれている」。後に、長男も一緒に暮らすようになり「独り暮らしが多いのでうらやましいと言われる。実際は色々あるけど」と村井さん。住民同士の関係が深まる中、コミュニティや家族について、自然体で話す様子が印象的です。マイペースな振る舞いを大切にされていると感じました。



町は「えきにし住宅」の様子を毎月発信。写真は2024年1月末の撮影



村井 民枝さん(81歳)

子どもが独立し、震災までは双葉町で1人暮らしをしていたという村井さん。避難生活がきっかけとなり、親子で会う機会が増え、再び3人で暮らすように。農家で生まれ育ち、「田んぼが見えるところに住みたい」という思いがある。今後やることもあるかもしれない」と話していました。

～年表～

- 2011年3月～ 川俣、埼玉県大宮、茨城県つくば、いわきなど、住む場所を何度も変えた。いわきの勿来(なこそ)が最後の仮設住宅住まい。仮設が無くなることになり、息子がいる仙台に行くことになった。
- 2018年9月頃 2人で暮らせるアパートを見つけて転居。後に娘も暮らすようになったが、仙台の暮らしに馴染むのは難しかった。自分も体調を崩し転居を考えた。
- 2022年11月 双葉町に帰還。



役場も置かれるようになった駅前。浪江町のイオンが来る日もある



ペイントされた建物が駅前に。復興に関心を持つ移住者もいる

文部科学省 原子力損害賠償紛争解決センター(ADRセンター)からのお知らせ

「東京電力からの賠償に納得できない」、「賠償請求が済んでいない損害がある」とお考えの方へ

ADRセンターを利用してみませんか?

ADRセンターは、原発事故の損害賠償について、円滑・迅速・公正に紛争を快活することを目的に設置された国の機関です。

ADR(裁判外紛争解決手続)の特徴

- ▶ 中立・公正な仲介委員(弁護士)が賠償金額をあらかじめ算定します
- ▶ 裁判より簡単、手続は非公開 ▶ 手数料無料(送料、通信費は自己負担)
- ▶ 弁護士がいなくても個人で申立てできます
- ▶ 申立書はADRセンターのHPから入手可能
- ▶ これまでの2万7千件以上の申立てのうち、約8割で和解が成立!

このような場合に、賠償金が支払われる可能性があります

<p>家族が別々に避難し、生活費が増えた</p>	<p>自家栽培野菜が手に入らなくなり食費が増えた</p>	<p>避難先から自宅に戻る引越費用が必要になった</p>	<p>自宅の除染費用放射線測定器の購入費用</p>
--------------------------	------------------------------	------------------------------	---------------------------

ADRセンターHP

◆ 申立てに関する問い合わせ窓口 ◆ 文部科学省原子力損害賠償紛争解決センター TEL.0120-377-155 (平日午前10時～午後5時)

記載しているサロン・団体等へのお問い合わせは

相談ダイヤル

080-9259-7049

※祝祭日・お盆・正月の場合はお休みとなります。

相談メール f-soudan@renpuku.org
ホームページ https://www.renpuku.org/
開設時間 毎週火・水・金曜日 11:00～18:00

福島県県外避難者相談センター [宮城拠点]

地下鉄南北線・勾当台公園駅(公園1出口から徒歩約5分)

※当センターは一般社団法人ふくしま連携復興センターからの委託により一般社団法人みやぎ連携復興センターが運営しています。

一般社団法人
みやぎ連携復興センター
〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町3-1-17 やまふくビル3階



うつくしまふくしま 交流会実施報告



- 日時** 令和6年3月8日(金) 14:30~16:00
- 場所** いわぬま市民交流プラザ
- 参加者** 福島県から県外避難された皆さん 14名
福島県 企画調整部 避難地域復興局 避難者支援課
ふくしま生活・就職応援センター
一般社団法人日本精神科看護協会 各1名

岩沼を会場にうつくしまサロンの終了後に交流会を開催しました。双葉町、浪江町、南相馬市の方に加え、大熊町、富岡町の方も参加しての実施となりました。

初めに、福島県避難者支援課から避難地域の復興状況について、ご報告を頂きました。続いて、専門分野において相談可能な「ふくしま生活・就職応援センター」及び「一般社団法人日本精神科看護協会」の担当者を紹介し、交流会へ。ご参加頂いた全員から、自己紹介・近況等を話して頂きました。避難当初の苦勞、現在も体調等がすぐれないこと、避難先のコミュニティになかなか馴染めないこと等をお話される方もいらっしゃいました。

避難生活が長期化している中で、今でも不安を感じながら生活をしていることを伺い知ることができました。



特定非営利法人 ちびぞうくらぶ

「ちびぞうくらぶ」は乳幼児・親子を対象とした大人のための大人が創る大人が笑顔になるサークルです。皆さんの「やりたい」をカタチにして実現していきます。いつでもお気軽にみなさんの声を聴かせてください。

代表/三浦未穂
会場/里の杜集会所 毎月第3木曜日 10:00~11:00
TEL.090-1069-5898



毎月楽しいイベントをご用意してお待ちしております

一般社団法人 パーソナルサポートセンター

パーソナルサポートセンター(PSC)は、分野をこえて様々な団体が連携し、パーソナルサポートの実施や制度化、パーソナルサポーターの育成を行い、支援を必要としている方を、様々な社会福祉制度やサービス、介護事業所や福祉施設などにつなげ、その方が地域で安心して暮らすことができるようお手伝いします。家を失ってしまった人、障がいのある人、DV(ドメスティックバイオレンス)の被害にあわれている人、一人親世帯、ニート、引きこもり、就労困難な人など、安定した生活を送ることが難しい状態にある人たちに寄り添い、伴走型支援を行っています。その中でも、生活に困っている方への支援として仙台市、宮城県の仙南地区(大河原町、川崎町、蔵王町、セケ宿町、柴田町、丸森町、山元町、亘理町)、黒川地区(大郷町、大衡村、セケ浜町、大和町、松島町、利府町、北部地区(色麻町、加美町、涌谷町、美里町、女川町、南三陸町)、多賀城市、富谷市、名取市で生活相談をはじめお仕事に関することなど幅広く相談に応じています。仙台市をはじめ宮城県内の広い地域で、それぞれの困りごと、お気持ちに寄り添い、一緒に伴走しながら一人ひとりの状況に応じた解決をしていきたいと考えています。「困った」や「どうしよう」といった場合には、一度パーソナルサポートセンターへご相談ください。

住所/仙台市青葉区二日町6-6-6 シャンポール青葉 2階
TEL.022-399-9662

フレンドリー東北

東北一円に会員多数在籍。年間約10回の交流会を会員のいる各地域で実施している。大熊町の人であれば会員以外でも参加可能。詳しくは大熊町のHPを参照。

会長/木幡 伸夫



利用会場一例

双葉会

4世帯40名以上が参加。青葉区内に拠点もあり、芋煮会など時節に応じて交流会を開催。参加希望者は双葉町のホームページ参照。別に婦人学級もあり。

代表/笠原 悦夫



双葉町

「みやぎ・富岡さくら会」

カラオケや食事会などの交流会を実施している。現在の会員は20数名で参加者随時募集中。

代表/坂本 一成
TEL.090-8927-7283



富岡町

うつくしまサロン

岩沼市及び近郊在住の方が参加。月1回岩沼市の会場に集まって交流しています。

みやぎ心のケアセンター
TEL.022-263-6615



月1回岩沼で開催

交流サロンさくら

毎月1回のお茶会の他、サロンコンサートもあり、その後は地元ボランティア団体と楽しくおしゃべり。

会場/柴田町地域福祉センター
柴田町社会福祉協議会
TEL.0224-58-1771



柴田町で福島の人に会いたい

すこやかサロン

月2回開催、健康体操やレクリエーション等を行い、楽しむ。他にもサロン等を開催中(月数回)。

本願寺 仙台別院
TEL.022-265-7366



青葉区で開催

福島の親子のサロン きびたん's

福島をふるさとに持つママ達のつながる場を月1回開催しています。親子のお楽しみタイムとママトークが人気です。

一般社団法人マザー・ウィング
仙台市泉図書館3-4階
TEL.022-772-7341



乳幼児のいるママのためのサロン